



外国の王妃さまが
とても上手にえがかれた、
かざるためのつぼです。
昔の日本の絵付け職人が、
外国の王妃さまを見る
ことは難しいはずです。
どうやって
作ったのでしょうか？



ぐるりと
まわって裏面も
見てみよう。



プロフィール

さくひん 作品の名前	いろえ 色絵エナメル金盛婦人文飾壺	きんもり ふじん もん かざりつぼ	うらがわ 裏側についているマーク
ねんだい 作られた年代	1891年～1921年(今から100～130年くらい前)		
ばしょ 作られた場所	日本		
ばしょ 売っていた場所	アメリカ		

この人はクイーン・ルイーズ

プロイセン(今のドイツ北部)の王妃さまです。

これだけ上手な理由は、ヨーロッパで作られた「転写紙」を使っているから。

「転写紙」は、専用の紙に絵がらを印刷したものです。

陶磁器にその絵を写し取り、焼き付けます。

このつぼが作られたころ、多色印刷の転写紙は、

ヨーロッパでできたばかりの新しい技術でした。

日本ではまだ作ることができなかつたため、高い値段でドイツ製のものを買っていました。

裏面のバラの絵は、日本の絵付け職人の手がきです。

バラの絵を

拡大すると・・・

手がきは、よく見ると筆のあとがわかります。



昔は手がきのほうが、製造費用は安くできたんだよ。

＼ちょっと耳よりエピソード⑤／

ファンシーウェアってなに？

ノリタケミュージアムの4階にあるものを見てください。陶磁器の全面に色がついていて、金がたくさん使っていますね。表面には、でこぼこした模様や宝石みたいなかざりがついています。このキラキラしたお皿や花瓶などは「ファンシーウェア」といいます。カップなど使えるものもありますが、多くは部屋にかざって楽しむためのものでした。

宝石のようにみえるところは「エナメル盛」という技法が使っています。



「ちょっと耳よりエピソード」は全部で24話あります。すべて集めてならべかえると、ひとつのお話になります。続きはwebでも読むことができます。